

まえがき

みなさんは、今、幸せですか？

私は今、ありがたいことに、比較的穏やかで軽やかな波動の中で、心豊かに暮らしています。

しかし、最初からそうだったわけではなく、やっと……やっとここにたどり着きました。

ここに来るまで、本当に長い旅でした。

「なんで？ 他の人は幸せに見えるのに、どうして私だけこんなツイてないことが起こるの？」「きつと私は、特別不幸な星のもとに生まれたんだ！」

本気でそう思い、自らを「不幸体質」と呼んでいた私。

よく成功者が「借金から人生一転！」と言ったりしていますが、そうした大きな試練が起きたわけではなく、生活の中で起こる些細なことなのですが、なんだかいつもモヤモヤし、常に幸せ探しをしていました。

少しでも楽に生きられるようになりたいと、スピリチュアルに傾倒し、幸せ探しの旅を始めたのが、30代半ば。

最初は楽しかったのですが、幸せになるために始めたことなのにやがて、「こうでなければならぬ」と思い込んだり、他人と比較し自分を卑下して焦ったりするようになりました。

巷ではやっているものがあれば飛びつき、人生激変した人の本を読み漁り、やがてセミナーやセッションを繰り返し……。。

だんだんと、スピリチュアルジプシー化し、出口が見えなくなり、何をどうすればいいのかわからなくなっていました。

そして私は、自分との心の向き合いとして、このグルグル迷走している様子や、心の内をありのまま「目醒めへの歩み」として、ブログに書くことにしたのです。

自分の歩みを記す日記のような内容でしたが、「私と似ている!」「まったく同じ! 共感しつばなしです!」

読者の方から、そうした反応を多くいただくようになり、あることに気づいたのです。

「なんで? 他の人は幸せに見えるのに、どうして私だけこんなツイてないことが起こるの?」「きっと私は、特別不幸な星のもとに生まれたんだ!」……。

そう感じていたのは、私だけじゃなかったんだ。

みんな大なり小なりそんな気持ちを抱え、「変わりたい!」と切望し試行錯誤している。

みんな、同じなんだなあと。

一発逆転で幸せになったり成功していたりする人を見ては、自信をなくしていたけど、私と同じように幸せ探しの旅をしている人のほうが、ほとんどなのかもしれないあと。

私は、何かの法則やワークをやって、一転したわけではありません。

急に覚醒したわけでもありません。

長い「幸せ探しの旅」を続ける中で、少しずつ螺旋階段を上るように、変化してきました。

少しずつステップアップしていきました。

この本には、その螺旋階段を上っていく様子と、そのときそのとき得た気づきと変容を綴っています。

その気づきを俯瞰したメッセージとして伝えてくれる「お試し大魔王」というのが、文中にできます。

お試し大魔王とは、なんぞや？　ですよね（笑）。

みなさんは、調子よく進み始めたと思つたところに、急にピンチがやってきた経験、ありませんか？

私は、始終そんな感じで、いいことがあつてもまた次によくないことが起こりそうで不安でした。

しかし途中から気づいたのです。「この、ピンチを乗り越えた後つて、必ずご褒美がやってくるなあ」ということに。

このピンチとチャンスを運んでくる存在を、私は「お試し大魔王」と呼ぶようになったのです。

そんな「お試し大魔王」のつぶやきも、まったりしながら読んでもらえたらと思います。

とても地味に歩んできた私のスピリチュアル螺旋階段。

エスカレーターで一気に、地下から最上階へ上がったわけではないし、一気に上がれる秘密兵器も持っています。

でも、それぞれの階で見えてきた景色と、そこで得た小さなアイテムすべてが、穏やかで軽やかで安心な波動の中にいる今の私を創ってくれています。

よく聞く言葉かもしれませんが、無駄なことは一つもありませんでした。

すべての経験が今に繋がっています。

「何をやっても変わらない!」「どうして私はいつまでたってもこうなんだ!」

と自分を責め、迷路に迷い込んでしまっている人は、ぜひ最後までこの本を読んでもらっていただけたらと思います。

他人と比べなくても、大丈夫。

螺旋階段の歩みでも、大丈夫。

どんな歩みでも、1つも無駄はない。

そして、目醒めへの歩みを決めた人は誰しも目醒めていけること。

読み終えた後、こうした安心感が湧いてくるかもしれません。

私の夢は、魂の仲間たちひとりひとりが、自分は素晴らしい愛と光の存在であることを思い出し、誰かが上で誰かが下でなく、横並びで手を繋ぎあう、そんな世界を創ることです。

不幸体質と自らを卑下していた私が、この境地にくるまでの地味で地道なストーリーを、ご自身に重ねながら読んでみてもらえたらと思います。

もしかすると読み終えた後、もうすでにあなたの中にある、あなただけの「ひかりのたね」に気づくことができるかも……しれません。

